

能登視察

6月20日(金)～22日(日)能登半島地震の被災地の視察を行いました。

能登半島地震発災時から継続して被災者支援に取り組まれている「はままつ na net」様の全面的なご協力のもと、能登の被災地を訪問しました。珠洲市、商工会議所、NPO、そして被災された方々など、今なお被災者支援・復興に尽力されている方々に直接お話を伺いました。

支援・復旧・復興で中心的な役割を担う皆様にお話しを伺いました。



【珠洲市役所 泉谷市長 他】

発災から陣頭指揮をとられた泉谷市長、三上様、連携して被災者をサポートされたピースウィンズ・ジャパン 橋本様から、市と県の連携や被災地支援における課題等についてお話を伺った

- 「発災前からピースウィンズ・ジャパンと珠洲市は良好な関係にあった為、震災に対してスムーズに協力できた」と説明があり、平時からの顔の見える関係構築の重要性が強調された
- 「断水により下水が使用できず、支給されたカップ麺の汁を飲み干すしかなく、高血圧が急増した」「長期間、支援物資の偏った食生活が続いた」など、被災時の健康問題についても言及された



【珠洲商工会議所 袖事務局長】

珠洲商工会議所 袖事務局長に珠洲市の復興現状や経済動向についてお話を伺った

- 子育て世代の約3割が市外流出するなど、将来の見通しが立たない極めて厳しい状況が続く
- 商工会議所会員の約2割が廃業を余儀なくされるなど、経済活動の停滞も深刻化している実態を紹介いただいた



【社会福祉協議会・珠洲ささえ愛センター 橋詰様】

被災した方々の生活再建に向けた支援を行う珠洲ささえ愛センター 橋詰様に、被災者からの相談内容等について伺った

- 仮設住宅の入居期限が2年間と決まっている中で、仮設住宅を出た後の住居について不安の声が挙げられている
- 2025年6月でボランティアセンターを閉所する予定であったが、引き続きボランティアのニーズがあることから、設置の延長を決めた



【珠洲市災害ボランティアセンター ピースボート災害支援センター 大塩様】

珠洲市のボランティアセンターの運営をサポートするピースボート災害支援センター 大塩様に発災後のボランティア状況について伺った

- 市とのネットワークを有していたため、初動対応においても連携がスムーズで自衛隊よりも早く炊き出しを開始した
- 市や自衛隊や消防が人命救助に集中するためにも、NPOは食事提供、物資配布、避難所の環境整備などで補完的な役割を果たすべきだとのご意見をいただいた



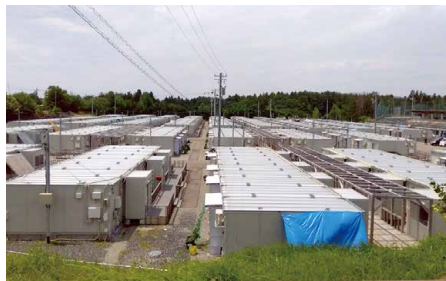
【七尾市 被災地NGO協働センター 増島様】

七尾市を拠点に被災地支援を行う被災地NGO協働センター 増島様に、発災時の避難所の様子や被災地の現状を伺った

- SEMAからの物資支援に大いに支えられた。オーダーしたものは大きなラグもなく届けられ、必要な数量を大きな過不足なく手配してもらえた
- ボランティア登録制度の導入については、現場の柔軟性や自主性が損なわれる恐れがあると指摘された

能登視察

【仮設住宅を見学させていただきました】



▲穴水町由比ヶ丘仮設住宅団地
約180世帯が入居する仮設団地



▲野々江第2団地
集会所で、はままつ na net様が主催するサロン活動の見学



▲正院町第3団地
地域産の瓦屋根を用いた恒久仮設住宅であり、入居期限終了後は、公営住宅への移行予定

【被災された方々にもお話を伺いました】



坂尻 夫妻

- 町内会長として避難所の取りまとめ役を担う
- 断水やコロナの集団感染、避難の長期化に伴う住民間の一体感の希薄化、常駐する町内会長への過剰な負担など、避難所の生々しい実情を伺った



輪島市 遊庵

- 輪島塗のギャラリー「遊庵」を経営
- 震災により、ギャラリー、自宅が共に倒壊するも、NPOの支援による各地からの買い支えやコンテナ設置が、ギャラリー再開の原動力となった

【被災地の様子】



▲珠洲市内の様子
現在も道路には多くのひび割れが残っており、家屋の解体作業が続いている



▲輪島市 朝市跡
1000年以上の歴史を持ち、年間50万人以上が訪れる伝統的な市だったが、震災直後の火災で約300軒が全焼し、現在は更地となっている



【事務局所感】

- 今なお過酷な状況が続く能登被災地を訪問する機会をいただき、「はままつ na net」および訪問先の皆様に深く感謝申し上げます。
- 道路の陥没や全壊した住宅が多数残る現状、復興の見通しが立たず世帯数の減少が続いている状況を目の当たりにし、復興の困難さを改めて痛感いたしました。
- 生団連としてこれまで実施してきた無償の物資支援だけでなく、目まぐるしく変化する被災地の実情に合わせた支援が必要であることを強く認識いたしました。
- これらの課題や現地的心声を委員会等で共有し、会員の皆様と連携しながら、被災地にとって実効性のある支援活動へと繋げてまいります。

視察にご協力いただいた「はままつ na net」のご紹介

正式名称「浜松の企業が手をつなぐ災害支援ネットワーク」

静岡県浜松市の企業を中心に結成された災害支援の任意団体で、それぞれの得意分野を活かしながら緩やかに情報共有・連携し、災害支援や防災活動を推進することを目指す。能登に50回以上訪問し、被災者支援に取り組んでいる。



▲団体HPはこちら